

令和四年度 春季 鎌倉俳句&ハイク

期間 令和四年二月一日〜令和四年の四月末

選者 星野椿、星野高士

投句数 二、二七七句

特選三句

天 花の雲 鎌倉殿の宴かな  
神奈川 佐藤 満

地 寿福寺に汀子師 偲ぶ虚子忌かな  
埼玉 古谷 彰宏

人 富士を背に谷戸から谷戸へ春の鳶  
神奈川 内藤 敏雄

入選句

一般の部(二十句)

春風に背中押される友の声  
群馬 新井 木乃香

潮風に花散る 伽藍光明寺  
東京 伊集院 秀樹

散りゆくを知るか知らずか若桜  
神奈川 角谷 昌則

海からの風待ち侘びる谷戸の梅  
神奈川 加藤 文男

梅の香の蘇我兄弟の志  
東京 剣持 都

梵鐘の流るる五山春近し  
神奈川 齊藤 マサ子

短めの母の形見の春裕  
神奈川 佐藤 利一

春風と共に旅立つ君の声  
群馬 柴田 華奈

初投句 鎌倉遠し春の虹  
東京 田中 正博

槐門のさだめ 偲びし実朝忌  
神奈川 谷田 八千代

岩を割る 菫愛しや何もかも  
神奈川 寺尾 明子

幼な子の瞳に映えし桜かな  
神奈川 内藤 栄美

子らの声空に弾きて木の芽吹く  
神奈川 能勢 仲子

会釈して桜ふぶきの段葛  
東京 野村 親信

春潮や白帆の動き 確かめて  
東京 星野 佐紀

観音の笑みが咲きけり梅の花  
愛知 藪谷 恭江

大仏の目には見えねど山櫻  
神奈川 山下 省三

恋人が似合うとはしゃぐ春セーター  
千葉 吉川 黎

春めくや雲をおしきる空の色  
神奈川 吉田 とも子

吹き上ぐる風の石段 燕舞ふ  
埼玉 渡邊 俊一

子ども部(十句)

大仏をいっしょに見たようぐいと  
大阪 小林 遥子

さくらみちバスがあるきにぬかされた  
神奈川 加藤 友康

春雨も大仏すっかり耐えている  
東京 釜江 定頼

はるかぜがふうつといきをはいてるよ  
神奈川 いしい かいと

カエルがねおはようっておきてきた  
神奈川 ふうだ こはく

うぐいすはいいこえだしていいきぶん  
神奈川 よしの かいと

鎌倉や空ときれいな春の海  
東京 須田 真優

暖たかな 鎌倉の町走るりす  
東京 柴田 夕楓

歩く度梅の香りに身がはずむ  
東京 馬場 海優

青いそらやつとやーつとはるがきた  
神奈川 池田 ひろ人

(順不同)



鎌倉の四季折々を十七文字に・・・  
鎌倉俳句&ハイク実行委員会  
〒248-0016 鎌倉市長谷 1-5-3  
公益財団法人鎌倉市芸術文化振興財団内  
鎌倉俳句&ハイク実行委員会  
TEL 0467(22)5010  
<https://www.kamakura-haiku.com/>